

未来ネットワーク通信

ひがの義幸
県政だより

新春号

2022.2



ひがの義幸の県議会活動

コロナ感染対策 地域経済再構築

積極果敢にチャレンジ

皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

コロナ禍の中、先行きが見通せない状況にあつて私たちの暮らしは大きく変容しつつあります。

第六波の感染防止対策と医療提供体制の強化と併せて、疲弊した地域経済の再構築など与えられた課題に積極果敢にチャレンジをし県民の皆様の命と暮らしを守る先頭に立って働いて参ります。

またこのたびの国政選挙により、栃木県

選挙区一区から五区まですべての選挙区において自由民主党の国会議員を誕生させることができました。

とりわけ栃木二区では、小選挙区での勝利を得ることはできませんでしたが、比例での復活で、「見事」、奪われていた議席を取り戻すことができました。

自由民主党栃木県連の選挙対策委員長としてほっと胸を撫で下ろしております。

岸田新政権が掲げる、新しい資本主義「成長と分配の好循環」が現実のものとなり、コロナで疲弊した地域経済の再構築と第六波の医療提供体制の拡充強化に全力を注いでほしいと願っております。

永野川改良復旧事業 強力に推進

本県・本市では気候変動の影響を受け直近の平成二七年に関東東北豪雨、令和元年台風一九号と二度の大きな豪雨災害に見舞われました。

県では、未だその傷跡が癒えぬ中でありますが、被災箇所の災害復旧事業はもとより ①河幅を広げる ②河床を下げる ③堤防を強化するといった改良復旧事業も進めます。

また、④上流にためる「ダム・貯水池・田んぼダム」⑤下流に流す「排水機場・渡良瀬遊水地の浚渫」といった河川全体の災害対

応力を強化する「流域治水」という考え方に基づいて豪雨災害対策が進められます。今後の県議会活動においても二度と当該地域が被災することのないよう全力で働いて参ります。

災害対策の具体的事業につきましてご報告申し上げます。

被災した河川の災害復旧につきまして、被災箇所一四三カ所の復旧が一〇〇％完了したほか、大規模災害の原因となった永野川では、事業延長一〇・六キロメートル、事業費約一九二億円をかけ令和五年の工事完了に向けて急ピッチで事業推進を図っているところでございます。(令和三年一月一日現在の事業の進捗率は、発注率六四％。完成率二五％。)



災害改良復旧工事が進む永野川
(赤津川合流地点) R4.1.7

巴波川地下トンネル 排水実験を実施中

市内中央を流れる巴波川は、大町地内「原の橋」から学悠館高校裏手の「平成橋」ま

で事業延長二・四キロメートル。事業費一五三億円を投じて捷水路(地下トンネル)で水を逃す「サイフォン」工法を進めることになりました。(現在模型による排水実験を実施中) 加えて、巴波川上流部に八カ所の調整機能を持つ貯水池や田んぼダムを整備することと合わせて、下流への排水対策として渡良瀬遊水地の浚渫(貯水容量を増加)や六箇所ある排水機場の改修整備を進めているところです。

市街地下流の巴波川 氾濫防止対策に道筋

また、巴波川の市街地下流の未整備区間については、過日、下高島自治会他、多くの関係者の皆様から早期改修の陳情をいただき、栃木土木事務所・下都賀農業振興事務所・栃木市役所の担当者、多くの地元住民の皆様との立ち会いのもとに地元説明会と現地調査を実施いたしました。

その結果、全長九・二キロメートル。総事業費見込み約二二億円で課題となっていた未整備河川の浚渫や堤防強化、さらに増水時に大きな障害となっていた取水堰や排水機場の改修など、事業実施の道筋をつけることができました。

言うまでもなくこれらの事業の推進には、本県出身の国会議員の後押しはもとより、県土木事務所・県下都賀農業振興事務所・栃木市の連携協力、何よりも地元自治会や関係地権者及び土地改良事業者等それぞれの皆様のご協力が不可欠でありますので何卒引き続きのご支援を心からお願い申し上げます。

私たちの住む栃木市が、二度と豪雨災害にさらされることのないよう全力を挙げて流域治水対策に力を注いで参ります。

コロナ感染対策 新たな医療計画

二度にわたる緊急事態宣言の発令、目に見えない敵コロナウイルスによって私たちの暮らしは大きく変容し、社会経済状況も不透明感を増す中、本県では医療従事者等の皆様の献身的なご尽力と、県民の皆様のご協力により一定の成果を見ることができました。

今後、この苦しい経験を生かし感染拡大を抑制し、医療提供体制の充実強化と疲弊した地域経済の再構築を進めていかなるはなりません。

昨年の第五波では、本県において感染者が急増し、コロナウィルス感染者受け入れ病床が不足し、一時期、入院調整者数四〇七人(令和二年八月二五日)、自宅療養者数、一四九五人に達するなど危うく医療崩壊の危機にさらされました。

病床逼迫が続く中、早期入院、酸素投与が必要な患者においても入院困難のまま在宅療養で一〜二週間支援せざるを得ないこともありました。県は、これら、過去の経験を検証し、第六波の感染拡大においても陽性となったすべての患者が速やかに、且つ継続して保健所や医療機関から健康観察や必要な医療が受けられる体制を維持構築するとしています。

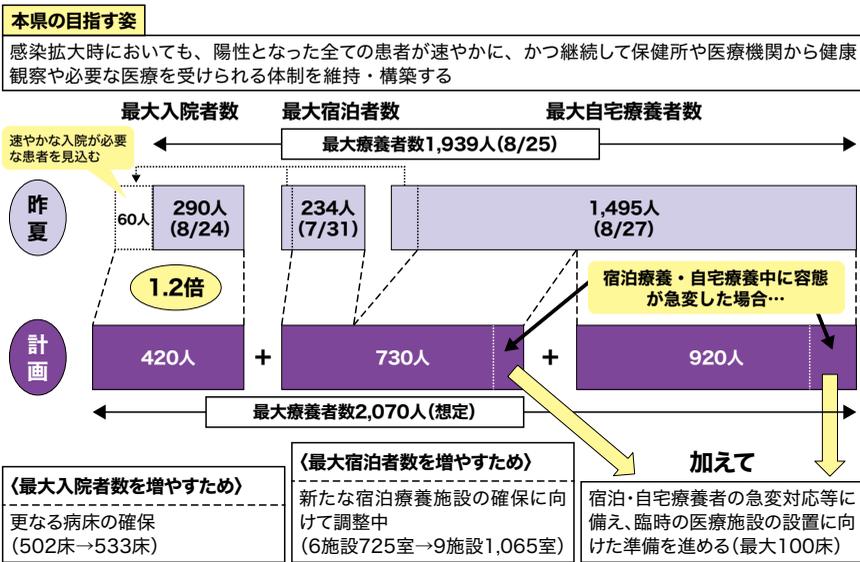
特に入院調整者を出さないよう、入院待機ステーション(臨時医療施設)を設置し、早期治療を開始することで重症化させない取り組みがスタートしました。
この取り組みは県内に先んじて、下都賀

郡市医師会の先生方の提案と医療従事者の皆様のご協力により栃木市でスタートすることができました。

早期治療により重症化を予防する事は、結果的に安定的な医療提供体制の確保につながって参ります。

新たなオミクロン株が猛威をふるう中、引き続きPCR検査による早期発見と保健所や協力医療機関による囲い込み、早期治療により重症化をさせない医療提供体制の充実強化を進め、医療からこぼれ落ちたまま亡くなる人が出ないように努めてまいります。

第5波の療養状況を踏まえた新たな計画について



支援市議との連携

みかも山のふもとのまち岩舟
地域の魅力に磨きをかける

浅野貴之

日向野県議とは、栃木市発展のために様々な分野で課題に取り組んできました。特に、私のふるさとである岩舟地域は、三杉川をはじめとする河川改修や旧五〇号線沿線の整備など生活に身近な要望対処に、お力添えをいただきました。

令和元年東日本台風では、小野寺地区を中心に大きな被害が発生しました。とりわけ、三杉川の防災対策は長年の課題でありましたが、東日本台風による越水被害の発生に際しては、迅速な復旧工事が実施されました。

今後も、日向野県議と連携して治水対策に尽力して参ります。

また、岩舟地域は、みかも山のふもとのまちとして、今後も地域の特性を活かし、その魅力に磨きをかけていくこととなりますが、県議は、青少年教育施設の誘致など将来のまちづくりにおいても力を発揮しています。引き続き、栃木市の発展に中心的な役割を果たしてもらいたいと思います。

藤岡市内の県道整備推進

梅沢米満

日向野県議には、主に次の通り栃木市藤岡地域発展のために多大なるご尽力いただいております。

令和元年東日本台風による三杉川が被害を受ける前、藤岡町都賀地区の川床の立木の伐採を行っていただき、また、災害の後は岩舟町小野寺古江地区の、川の立木の伐採なども迅速にご対応いただきました。

藤岡町都賀を通る県道九号線から国道五〇号線につながる広域農道(現在の県道二八二号線)と、現市道三二二八一号線の交換、道

路改良へのご助力。道路整備により渡良瀬川への新規の「橋」の設置準備が整いました。橋設置に向けて現在もご尽力いただいております。

県道一〇号線の藤岡町大前地域での拡幅、歩道の設置工事へのご協力いただき、現在も工事が着々と進んでいる。

更新時期の排水機場 急ぎ機能回復が必要

福富善明

日向野県議には藤岡の「治水対策」お世話になっております。

お陰様で更新時期の過ぎた藤岡地区土地改良区「石川排水機場更新事業」が令和八年度完成を目指して実施されます。

その他、八津排水機場など四方所の更新が控えているので早期の実現をお願いします。

栃木市災害時の受け入れ施設として緊急物資備蓄基地「道の駅みかも」と、建設予定の「少年自然の家」で受け入れたらと思います。これからも災害に強い道路、橋梁の整備をお願いします。

栃木市は農地転用規制を緩和し、土地の有効利用を図り「農・商・工」調和のとれたまちづくりをすれば、定住促進につながるのではないかと。

渡良瀬遊水地で猪が多くなり、堤防の損傷が見られるので早急な対策をお願いします。

県議と共にスポーツ環境整備

坂東一敏

私は、市議会議員のライフワークとして「子どもたちのスポーツ環境の整備」を念頭に、日向野県議と連携して活動してきました。特に、子どもたちが、野球や



日向野県議と寺内崇幸さん

流域治水に田んぼダムの動き

令和四年度以降 毎年50ヘクタール整備

日向野後援会「治水対策プロジェクトチーム（森田昇一代表）」が、栃木市に治水対策に関する提言書「栃木市街の巴波川氾濫防止に田んぼダム」を令和2年8月5日に提出しました。

栃木市では、河川の氾濫防止に田んぼダムは「有効」との認識の下に、国の補助事業を導入して吹上東部地区の圃場15ヘクタールで実証実験を実施するなど、早速、田んぼダム整備に取り組んでいます。

日向野県議は、実証実験の補助事業（2千2百万円）の導入に当たり、栃木市長と連携のもとに導入の道筋をつけました。

田んぼダムは、令和2年に巴波川上流地域の吹上東部（栃木市土地改良区）赤津北部（都賀町土地改良区）地区10ヘクタールを整備。

令和3年度は、永野川上流地域も含めた吹上東部・栃木市西部地区20ヘクタール、赤津北部・南部地区13ヘクタールを整備します。

令和4年度以降は毎年50ヘクタールを整備する計画です。実施にあたっては、流域治水として効果の高い市街地北部地区を優先し、徐々に市内全域に拡大していくとのこと。

日向野鉄道プロジェクト

お役立電車実現に頑張る

東武日光線、JR両毛線沿線から大宮・東京・品川方面への時間短縮と乗り換えの不便解消、そして両線に、人口動態、地価等で有利なJR宇都宮線に準ずる鉄道機能を持たせようと、日向野鉄道プロジェクトチーム（代表・平野和正）は、「東武JR直通快速電車（お役立ち電車）」の実現に向けて頑張っています。

令和三年二月にはJR東日本の「羽田空港アクセス線」事業認可がおり環境も整ってきました。

令和三年七月の大川秀子栃木市長への要望書提出から、東武線の始発となる日光市の粉川昭一市長への協力要請（同九月）。

茂木敏充衆院議員（自民党幹事長）に対してもお力添えをお願いしました。

茂木幹事長からは、そのうち関係市町からも要望もあると思うが、「地域住民のためしっかりと受け止めて対応したい」との激励をいただきました。



茂木自民党幹事長に協力要請 R4.1.9

サッカーなどを通して気力・体力の向上、仲間と共に目標を達成する「喜び」を知ることが出来るよう努力しています。

その一つに「野球を愛することも私たちのために」企画された「寺内崇幸杯学童野球大会」があります。

大会の実行委員会副会長を務めさせていただいて運営に当たっております。今年第三回は十一月頃開催の予定です。

令和元年台風では、私の住む城内地区も被害がありました。河川や道路の復旧にあたり、一番親身になってご尽力いただいたのが日向野県議であります。

これからも、栃木市や城内地区のために日向野県議と共に活動して参ります。



県議の尽力に地域住民も感謝

おおや好一

令和元年、東日本台風（台風一九号）に伴う豪雨出水により、永野川の堤防決壊、護岸崩壊、そして、家屋の浸水等、甚大な被害が発生しました。

栃木県では、被害の大きかった県道栃木佐野線（皆川街道）から下流の国道五〇号までの総延長一〇・六kmに於ける国の「災害復旧助成事業」の採択をうけました。

現在、越水、破堤のあった箇所等を優先に可動掘削、護岸工事を推進しています。これもひとえに日向野県議のご尽力の賜物と地域の皆様も感謝しています。

おおや好一は災害に強いまちづくり、市民の皆様がやさしいまちづくり、そして、子どもたちが安心して登下校の出来る道路づくり等、市民の皆様生活を考えるために、日向野県議と連携を図りながら推進してまいります。



商業施設誘致 進入路で連携

中島克則

日向野県議には大変お世話になりありがとうございます。

私の住む都賀地域東部は完成すればJR小山駅まで直結する県道小山栃木都賀線が南北に縦貫しています。現在この沿線には「平川産業団地」の造成と、ショッピングモール建設等の開発が進行中です。市の財源確保と地域の雇用を考えたときこの事業は必ず成功させなくてはなりません。しかし、この県道からショッピングモール予定地への進入路確保が大きな課題となっています。昨年から日向野県議と連携して、この高いハードルをクリアすべく関係当局への働きかけを話し合ったところ。支援議員の一人として私自身郷土発展のために邁進してまいります。ご協力お願いいたします。



県道補修は即対応

針谷正夫

日向野県議と連携して取り組み地域住民の生活向上につながった事業を抜粋します。

県道上久我栃木線本城橋南側の「路面が破損し穴が開いていて危険だぞ」との声。県では、応急処置的に安全の回復を図るとともに、その後、本城橋以南約三〇〇メートルにわたり、路面打ち替え工事が実施された。

同道路の西方中交差点から以南の本郷地内ハリカ事業所付近まで、消失してしまったセンターラインが回復された。また、同道路の本郷地内の水溜りの解消が図られ、通学歩道の安全が向上した。

「不具合があったらまた言ってください」との県行政の言葉がありがたい。

県道栃木鹿沼線金崎上組、栄町地内の道路東側の老朽化した「側溝」の鉄板蓋がグレーチングに新調された。五三カ所。



県道上久我栃木線（本城橋南）

町進記

学而時習之。不亦説乎

〜学びて時に之を習ふ。

亦説ばしからずや〜

第十八回全国藩校サミット壬生大会に参加して

令和三年（二〇二二）十一月二十日、壬生町で開催された全国藩校サミット。面白かった。徳川宗家第十九代徳川家広氏が目の前におられるのだ。徳川幕府、諸国の藩が、テレビドラマでみる一種架空のものではなく、この世にその地にあったことを実感できる。「過去」に連なる頼もしい感触。この経験が必要だ。

わが国は「明治新政府」によって一部、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）によって徹底的に「過去」を否定された。そうして、徳川時代は鎖国で世界の進歩に後れた時代、「戦前の日本」は、他国を侵略した悪い国、とされてきた。

しかし、鎖国は、大航海時代、非ヨーロッパ諸国からみれば「略奪と虐殺の時代」に、国を守った賢明な選択だったはずだ。我が国が植民地にならず二百七十年の太平を築いたことが何よりの証拠だろう。ただ、ペリーの黒船に驚くことにはなる（嘉永六年…一八五三）。しかしその五十年後、ロシアのバルチック艦隊を殲滅し、旅順を陥落させた（明治三十八年…一九〇五）。白人を打ち破った初めての有色人種。これを見て白人種が日本人に抱いた「不気味さ」は、想像しておく必要がある。

大正八年（一九一九）、第一次大戦後の国際連盟委員会において、我が国は世界で初めて「国際連盟規約」中に人種差別の撤廃を明記すべきと提案。採決結果は賛成十一票、反対五票だったが、議長を務めたアメリカ大統領ウッドロウ・ウィルソンは、「本件のような重大な問題についてはこれまでも全会一致、少なくとも反対者ゼロの状態で採決されてきた」と、この提案を否決した。白人種に潜む抜きがたい人種差別感情、これも忘れない方がいい。

白人種であるGHQは、そうした基盤の上に、

日本が二度とアメリカに立ち向かうことのないよう占領政策を計画実施した。たとえば「大東亜戦争」の呼称を禁じ、「太平洋戦争」を強制したのは、アジア諸国の独立という「日本の功績」から目をそらさせるためだろう。我々は「民主化」と習ってきたが、白人種を驚かせた『強い日本』の基礎と思われる制度、文化の棄却・解体、過去の否定、歴史の改竄が本当のところには違いない。

壬生の藩校サミットで、徳川家広氏（五十六歳）は、
「私が子供の頃、徳川時代は古い悪い時代とされていた。しかし現代の混乱の少なからぬ原因が、徳川時代に重視した漢文教育の軽視、論理的思考の涵養を怠った結果ではないかと考えると、藩校教育再評価が二十年近く行われてきた意義は深く、日本の成熟を示すと思う」と、述べられた。NHKの大河ドラマも明治新



令和3年11月20日 壬生町城址公園ホール
全国藩校サミットは、漢字文化振興会（現漢字文化振興協会）の呼びかけで、漢字文化を後代に受け継ぐことを基本理念に、平成14年（2002）始まった。

政府を実質的に動かしていた幕臣・渋沢栄一を描くようになった。

米沢興讓館高校、福山誠之館高校、福岡修猷館高校は、それぞれ山形、広島、福岡の県立高校だが、藩校の名を冠し、今なお名門として知られる。わが栃木市も、第一小学校・第二小学校統合の際、「日惜舎小学校」の名が提案されたが、GHQの従順忠実な後継者と思しき「奴隷の思想」（江藤淳『奴隷の思想を排す』一九五八年）を奉ずる方々の大反対で、歴史もセンスも教養も感じさせない「中央小学校」に決まった。

「日惜舎」は、明治初期、栃木町近龍寺内に開設された栃木県初等教育の嚆矢である。ペリー来航後五十年で近代陸海軍を形成でき

たのは、寺子屋、藩校など江戸時代の教育の普及、幕末の勘定奉行小栗上野介忠順らの近代化政策など、営々と国力を培ってきた成果だろう。明治になってポツと出てきたものではない。

壬生藩の学問所は、正徳三年（一七一三）全十番目に開設され、弘化三年（一八四六）論語の「学而時習之。不亦説乎」より『学習館』と名付けられた。現在、壬生町では、子供たちが論語を朗唱している。

令和四年（二〇二二）は壬寅。「陽氣を孕み、春の胎動を助く」とか。春の胎動が大きく花開くためには、地道な自分磨きを行い、実力を養う必要がある、という。頼もしい過去に連なり、力強く未来を開きたい。（申丸）

後援会からのお知らせ

令和三年十二月四日に日向野後援会総連合会役員会が行われ、ケント・ギルバート講演会開催等について協議されました。役員会概要は次のとおりです。

●日向野義幸 県議会議員

日向野県議から永野川、巴波川の災害復旧工事の状況、田んぼダム、渡良瀬遊水地浚渫等治水対策。コロナ関連では臨時医療施設（野戦病院）の設置等について活動報告がありました。

●プロジェクトチーム活動報告

鉄道プロジェクト、治水プロジェクト、太平山再開発プロジェクトの各チーム代表から現時点での調査・研究、及び、対応状況についての報告がありました。

●日向野県議の転居報告がありました。

新住所 栃木市藤岡町中根四一〇番地五
電話 〇二八二一六七二七七〇

●協議事項

コロナの関係で延期されていた「ケント・ギルバート講演会」を二月一〇日に開催することが承認されました。（新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては中止となる場合があります）
栃木市議会議員選挙に立候補予定の、日向野県議を支援する市議会議員十名について日向野義幸後援会総連合会で推薦することが承認されました。

●野田尚吾後援会特別顧問から栃木市の関係する衆議院選挙三選挙区を総括する「ミニ講演」がありました。いつもながらの野田節で、興味深い分析結果でありました。

編集・発行 ひがの義幸後援会総連合会
発行日 令和4年（2022）2月11日
編集発行責任者 高田 良久
事務局 〒328-0075 栃木県栃木市箱森町7-9
TEL 0282-23-8855 FAX 0282-23-8856
E-mail info@higano.jp

■ひがの義幸 ホームページ・ツイッター アドレス

H P www.higano.jp
Twitter <https://mobile.twitter.com/yoshiyukihihigano>